



気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業や催事などを四半期ごとに紹介します。

◆◆ 主な内容 ◆◆

- 気仙沼高等技術専門学校 他：平成28年度気仙沼・南三陸自動車セミナーを開催しました
- 気仙沼保健福祉事務所：平成28年度復興期の心のケア研修会を開催しました
- 本吉農業改良普及センター：「地域食材クッキング体験 in 気仙沼」を開催しました 他
- 気仙沼地方振興事務所：アカザラガイの講演会・試食会を開催しました／
水産加工販路開拓セミナーを開催しました 他

平成28年度気仙沼・南三陸自動車セミナーを開催しました (気仙沼高等技術専門学校, 気仙沼地方振興事務所地方振興部, 産業技術総合センター)

昨年11月30日、気仙沼高等技術専門学校において気仙沼・南三陸自動車セミナーを開催しました。

このセミナーは、気仙沼・南三陸地域におけるものづくり産業の振興を図る事を目的に、産業技術総合センターほかが開催したものです。

当日は、管内の精密部品メーカーや自動車整備会社等のほか、気仙沼高等技術専門学校から合わせて約30名の参加があり、産業技術総合センターの萱場(かやば)文彦氏から「燃料電池自動車(FCV)とは何か～水素自動車を中心に～」と題した講演が行われた後、宮城県が所有する燃料電池自動車(トヨタMIRAI)の実車を使った車両解説が行われました。

参加者は最新の燃料電池自動車に触れながら、「燃料電池自動車の優れている点は何か」、「水素タンクの耐久性について教えて欲しい」などの質問を行い、今後の普及が見込まれる燃料電池自動車について理解を深めました。



講演の様子



車両解説の様子

平成 28 年度復興期の心のケア研修会を開催しました (気仙沼保健福祉事務所)

昨年 12 月 19 日、当事務所において「復興期の心のケア研修会」を開催しました。

震災直後から休むことなく身近で住民を支えてきた支援者の方々を対象に、東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科教授の菊池陽子先生から、メンタルヘルスの保ち方や、相手も自分も大切にするコミュニケーション(アサーション)についてお話をいただきました。

座学の講義だけではなく、体全体を使った演習も多く、研修会後のアンケートでは参加者の約 90%の方が「とても満足した」「満足した」と回答し、「楽しく学べた」「自分のクセを知るきっかけになり、なかなか言えない事でも相手を傷つけずに伝える方法があると分かった」などの感想が寄せられました。



研修会の様子

「地域食材クッキング体験 in 気仙沼」を開催しました (本吉農業改良普及センター)

昨年 12 月 13 日、気仙沼中央公民館で、郷土食を伝える地域食材クッキング体験 in 気仙沼を開催しました。

講師には、農産物直売所みのり市の会員で、店に「がんづき」を出荷している熊谷洋子氏を迎え、“もさ”と“ねっちり”の「がんづき」2種類の調理実習を行いました。

参加者は、郷土食に関心のある気仙沼市内の 30～50 代の主婦 11 組が集まりました。

参加者の中には、「膨らみが弱いのでコツを学びたかった」「ねっちりがんづきのふかし上がりの見極めを知りたかった」など向上心を持って参加している方もいました。

調理実習では、「もさがんづき」の重曹と酢の化学反応で一気に泡立つ様子に、参加者一同身を乗り出して見入っていたり、作業の合間に何度も講師を呼び作業の見極めを確認するなど、熱心に取り組んでいました。

試食は「美味しい！」「思ったよりも簡単で自宅でも子どもと一緒にできそう」という声があがり、次回の開催内容について「郷土料理の『あざら』を習いたい」「『かぶぶかし』も」という要望も出ていました。



もさがんづき



見入る参加者

JA 南三陸果樹生産部会のりんごせん定講習会が開催されました (本吉農業改良普及センター)

1月27日にJA南三陸果樹生産部会主催のりんごせん定講習会が開催されました。

当日は唐桑の千葉氏の園地を会場に約20名の部会員参加のもと、台木の異なる「ふじ」を選んで講習が行われました。

りんごは同じ品種でも使う台木によって樹の大きさや枝の伸び方が異なるため台木の種類に応じたせん定を行う必要があります。はじめに普及センター職員が草刈などの作業に障害となる枝の扱いや隣接樹との関係、翌年の花芽への影響などを解説しながらせん定しました。続いて園主の千葉氏が枝の更新をするときの注意点や具体的な技術について実演しました。

せん定はりんごの栽培管理作業の中でもその出来を大きく左右する大事な作業ですが、十人いれば十人もその方法が異なるといわれるような難しい技術です。

参加した部会員は、自分のやり方と違うせん定や枝の残し方について熱心に質問しており、その姿からおいしいりんごを作ろうとする意気込みが感じられました。



講習会の様子

農業者のためのマーケティング力向上セミナーを開催しました (本吉農業改良普及センター)

1月12日、気仙沼市本吉町の本吉公民館において、「農業者のためのマーケティング力向上セミナー」を開催しました。

年明け早々にも関わらず、管内の農業者や関係機関の職員など約30名が参加しました。

飲食店検索サイト運営会社「ぐるなび」の山崎啓輔氏を講師に迎え、国内の飲食業界の動向や接待用土産などのビジネスギフト市場について、事例を交えながら講演をいただきました。

国内の飲食業界の市場規模が縮小傾向にあること、コンビニエンスストアとの競合も課題となっており「飲食店ならではのこだわり」を求めて生産者との直接取引が増えていること、飲食店と生産者が直接取引するメリットやデメリットなど、わかりやすい説明に参加者は熱心に聴き入っていました。

質疑応答では、「農家から飲食店に向けてどのように発信したらよいかわからない。飲食店が農家に求める情報は？」「飲食店とのつながりがなく、直接営業に行ってもよいのか」などといった積極的な質問が相次ぎ、飲食店との直接取引への意欲が感じられました。

今回のセミナーを契機に、地域内の飲食店と生産者が一件でも多くつながってくれることを期待しています。



セミナーの様子

FSC認証材を活用した国産広葉樹ファニチャーの製品化に向けた取組がスタートしました (気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

南三陸森林管理協議会(会長:佐藤久一郎氏)では、岩手県住田町・岩泉町及び宮城県登米市のFSC森林管理認証(FM認証)取得団体との連携による「4 trees net.」を設立し、FM認証森林合計面積2万5千haを基盤とする認証木材の安定供給体制を構築するとともに、FSC合板の一般商品化や、全国的にも珍しいFSC国産広葉樹による各種ファニチャーの商品化についての取組みを始めました。

このうち、広葉樹ファニチャーの商品化については、伝統工芸品:仙臺筆筒の若手職人との連携による、高度な加工技術を活用した製品試作を行うとともに、1月19日～20日に東京ドームシティにおいて東京都が主催する「WOOD コレクション 2017」で、取組内容の展示PRを行いました。



WOOD コレクション 2017 における試作品の説明

展示会場には、北海道から九州までの各都道府県の木製製品の展示PRが行われる中、国産広葉樹製品の紹介事業体は稀少で、来場者のほか、出展関係者を交えた多くの方々に展示ブースを訪れていただき、コナラなどの広葉樹製品について品質や加工内容と販売設定価格等についての様々な助言指導をいただきました。

中には、輸出展開を検討するようにとの意見をいただき、今後の商品化に向け、大いに参考となりました。

広葉樹製品化の第1号として、農林中央金庫からの支援を受けて、南三陸町に新設される「南三陸さんさん商店街」に対し、南三陸森林組合が窓口となり、FSC認証林のスギ(針葉樹)とクリ(広葉樹)を活用した「里っこ」と名付けたテーブルと椅子のセットを寄贈しました。

スギの柔らかさとクリの耐久性を活かしたシンプルなデザインのテーブルと椅子で、多くの観光客の皆様をおもてなしします。



寄贈する「里っこ」のセット

飲食店等向けの南三陸米と地域食材の試食会を開催しました (気仙沼地方振興事務所 農林振興部, 地方振興部)

2月14日、気仙沼市内において、「南三陸米と地域食材の試食会」を開催しました。

南三陸米は、気仙沼市や南三陸町、登米市津山地域で生産された栽培履歴が明確な一等米の「ひとめぼれ」です。地元のおいしいお米である南三陸米や、食材をもっと地元の人に食べてほしいという思いから、飲食店や宿泊施設等の関係者に、春告げやさいや南三陸ねぎなどの料理と南三陸米を試食してもらいました。

参加者からは、「粘りと甘みがあっておいしくいただきました」、「塩むすびにして食べてみたい」といった感想が聞かれました。

今後も地元のおいしさを発信し続けていきます！



試食会の様子

宮城県漁協唐桑支所青年部が第55回農林水産祭において天皇杯を受賞しました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

過去1年間(平成27年8月～平成28年7月)に全国で開催された催事において、農林水産大臣賞を受賞した7部門509点を農林水産祭中央審査委員会が厳正に審査し、特に優れた事例を表彰する第55回農林水産祭の式典が昨年11月23日に東京代々木の明治神宮会館で開催されました。

水産部門からは唐桑支所青年部が地元小学校との連携のもと、震災の苦難を乗り越え10年間にわたり活動を継続し、その蓄積を基に一連のカキ養殖作業工程等を学ぶ総合的な体験型の学習プログラムを構築したことが高く評価され、最高賞である天皇杯を受賞しました。

また、天皇杯受賞に伴い、1月23日に皇居において天皇皇后両陛下に拝謁し、両陛下に取組内容等を御説明してきました。



会場の様子



小野寺部長及び唐桑支所畠山運営委員長

アカザラガイの講演会・試食会を開催しました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

地元でしか知られていないアカザラガイに着目し、商材の開発と普及を目指した農商工連携・6次産業化の取組を展開しており、アカザラガイを生産している県漁協唐桑支所と市内の飲食店とのマッチング等を実施してきました。

昨年12月5日には、マッチングした飲食店と県漁協唐桑支所が連携し、アカザラガイに係る講演会及び試食会を関係者等約30名が出席して開催しました。

講演会では、宮城大学の西川教授から栄養成分及び小口流通システムの構築によるブランド化等について、漁協女性部からはアカザラガイ燻製品の開発等これまでの活動報告を行いました。

試食会では、グラタンやコロッケ、西京みそとチーズ焼きといった和洋の8品を試食し、アカザラガイの商材としての有望性等について認識の共有化を図りました。今回の講演会・試食会は非常に好評で今後の商品開発や情報発信のきっかけとしていければと考えております。



西川教授の講演の様子



試食会の様子



水産加工販路開拓セミナーを開催しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

1月31日、気仙沼市内で「水産加工販路開拓セミナー」を開催しました。

このセミナーは「震災で失われた販路の回復」や「販路の開拓」を目的としたもので、特定非営利活動法人経営支援NPOクラブの中島保(なかじまたもつ)氏を講師にお招きし、「成約につなげる商談のポイント」と題した講演をいただきました。講師からは「商品と一緒に動くことが重要」、「高齢化社会では商品の量目や伝え方に工夫を」など経験に基づいたアドバイスがありました。

講演後は、第2部として同クラブ所属の専門家と地元企業による個別相談会が行われました。各企業は商品パンフレットやサンプルを交えながら取引状況について説明し、NPOクラブ所属の専門家からは、開拓先候補の分野等についてアドバイスがありました。

水産加工会社の営業担当者などの参加者は、講師や専門家からのアドバイスに耳を傾けメモを取るなど、今後の販路開拓の参考にしていました。



会場の様子



講演の様子



相談会の様子

インバウンド推進セミナーを開催しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

1月25日、宿泊施設などの観光関係事業者を対象にした「インバウンド推進セミナー」を開催しました。

このセミナーでは、外国人観光客への接客応対に不安を持っている方、すぐに使える接客英会話を習得したいという方向けに、簡単で実践的な英会話講座を行いました。

講師には、株式会社ライブブリッジ代表取締役の櫻井亮太郎氏をお迎えし、「簡単！すぐ使える！実践英語セミナー」と題して、英語フレーズの習得や名刺交換、外国人講師とのロールプレイを行いました。受講者からは、「楽しく学べた」「明日から使える知識ばかりだった」等の感想が聞かれました。



会場の様子



会場の様子